

波と風

理念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2P 診療科紹介（泌尿器科）
- 3～5P 診療科紹介（内分泌・糖尿病内科）
- 6～7P 診療科紹介（歯科・歯科口腔外科）
- 8P 職場紹介（8A 病棟）
- 9P 職場紹介（9A 病棟）
- 10P 職場紹介（治験管理室）
- 11P 職場紹介（輸血管理室）
- 12～13P 薬剤師派遣活動（大阪臨時医療施設）報告
- 14P 第 11 回 治験責任医師表彰
- 15P 防火避難訓練を終えて
- 16P 「広島県看護学生スポーツ交流大会」を終えて
- 17P 「ナイチンゲール生誕祭」を終えて
- 18P 第 55 回呉看護学校 学校祭を終えて
- 19P 永年勤続表彰
- 20P 特定行為研修開講式の開催について
- 21P 専門看護師の活動紹介
- 22P うちの部署の接遇キラリさん
- 23P 我が家のスターたち
- 24P 令和 5 年度 学生募集のお知らせ
寄付について、編集後記

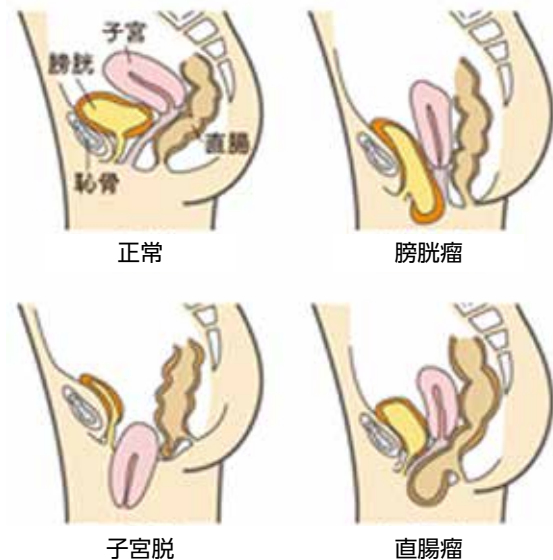
泌尿器科

骨盤臓器脱は
治ります！

泌尿器科医師 福岡 憲一郎
泌尿器科科長 繁田 正信

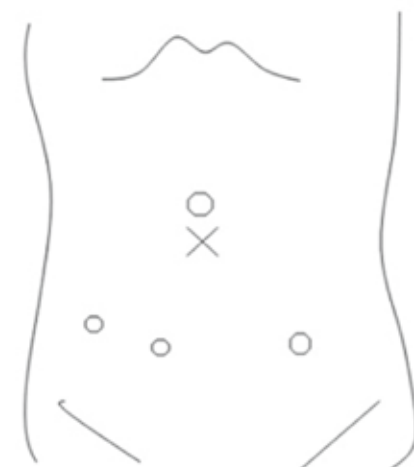


当院泌尿器科では腎、尿管、膀胱、前立腺のがん治療だけでなく、排尿障害に対しても積極的に治療を行っています。男性に前立腺肥大症があるように、女性には骨盤臓器脱という特有の病気があります。これは、出産や加齢に伴い骨盤の支持組織が弛んだために子宮や膀胱、直腸が膈外に出てきてしまう病気です。昔は「なすび」、「なすびが下がる」とも言われていました。軽度であれば無症状のことが多いで



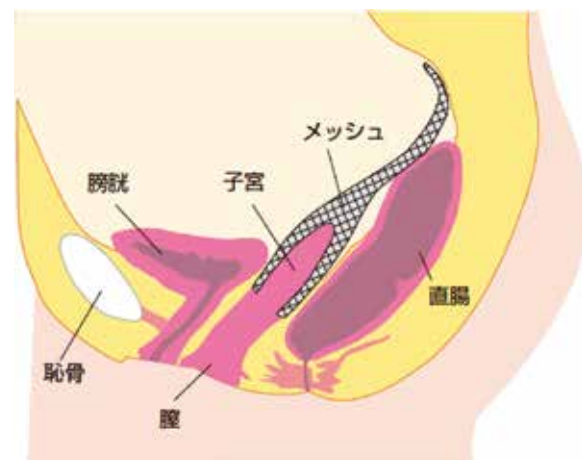
すが、脱が進行してくると膈に何かがはさまったような違和感やお風呂場で股にピンポン玉のようなものが触れるといった「下垂感」を感じるようになります。尿漏れや、脱を押し戻さないと尿が出にくいといった「排尿に関する症状」、便が出にくい感じや残便感、頻便などの「排便に関する症状」などがみられることもあります。また、下腹部が引っ張られるような感じ、下腹部痛といった症状や、膈壁や子宮がいつも脱出していると、その部位が下着でこすれて出血するなどの症状が出ます。

治療としてはペッサリー挿入や骨盤底筋体操がありますが、それらで改善しない場合や脱が重度な場合には腹腔鏡下仙骨膈固定術という根治手術をおススメします。当科では令和2年より新たに骨盤臓



下腹部に穴をあける位置
手術用の筒(ポート)を挿入します

器脱に対する腹腔鏡下仙骨膈固定術を導入し、これまでに17例施行しました。腹部に約1cmの穴を4-5か所開けてガスでお腹を膨らませて手術をします。膀胱と膈壁の間、直腸と膈壁の間を剥がして前後の膈壁にメッシュを縫い付け、それを仙骨に引っ張って固定します。手術時間はおよそ3時間、出血は少量です。お腹にドレーンも入れないので非常に楽で、術翌日から歩行や飲食を再開します。まだ術後の経過観察期間は短いですが、全例再発していません。この疾患でお困りの方は、一度当院泌尿器科を受診してはいかがでしょうか。

内分泌
・
糖尿病内科「明るく楽しい糖尿病治療」をモットーに、先進の糖尿病治療を目指す
呉医療 diabetes ブルーチーム

内分泌・糖尿病内科科長 久保田 益亘



【当科の糖尿病診療】

当科は呉医療圏における糖尿病診療拠点病院として主に血糖コントロールが難しい患者さんの治療に取り組んでいます。糖尿病治療の目標は、高血糖に起因する代謝異常を改善することに加えて、糖尿病に生じやすい合併症の発症、増悪を防ぎ、健康な人と変わらない生活の質(quality of life)を保ち、健

康な人と変わらない寿命を全うしていただくことにあります。糖尿病は患者さんの生活すべてを反映した病気と言われるように、病因に加え、年齢や食習慣、仕事や家庭環境、併存疾患や認知機能などにより病状が変化し、都度的確な病態把握に基づいた臨機応変な医療が必要となります。そのため、初診時には、初期研修医の先生を中心に患者さんの問診を行い、主治医と協議することにより、糖尿病と診断されたきっかけやその時期、治療における患者さんのご希望、家族構成、依存症、服用されているお薬などを診察前に把握させていただいております。さらに栄養指導において体組成計を活用することで患者さんの体脂肪率と筋肉量を経時的に評価し、治療に活用しています(図1)。糖尿病教育入院では、当院が高度総合病院であることを活かした糖尿病教育入院パスにより、必要な検査や生活指導、糖尿病合併症精査を一通り受けていただけるプログラムをご用意しております。さらに、症例カンファレンスでは、4B病棟看護師や病棟薬剤師、管理栄養士と一人一人の患者さんの情報を共有し、患者さんの糖尿病治療上の問題点を多職種により検討することで、食事指導、運動療法、看護ケア、服薬アドヒアランスの向上、治療法の選択や継続性の検討、糖尿病合併症対策を個々に検討して行っております(呉医療4B

diabetes ブルーチーム：図2)。これにより、ある程度のパッケージはご用意し、入院治療を効率よく終えていただくように工夫すると共に、各々の患者さんのご希望や病態、家族構成や生活様式に合わせた治療に関しては、的確に変更追加できるような出来の良い注文住宅のようなテーラーメイド治療を目指しております。

図1: 栄養指導における体組成計の活用

当院栄養相談室にて InBody を
測定している風景

図2: 呉医療 4B diabetes ブルーチーム



呉医療 4B diabetes ブルーチーム

糖尿病は、慢性病であるため治療は長期に及ぶことが多いのが実情です。マラソンでいうと長距離走であり、スタート地点で息切れしてしまえば、併発症の発症を予防できません。そのため、患者さん自らがやる気を持って治療に参加していただくことが必要不可欠であり、各人のライフスタイルに沿った治療を無理なく続けていただくことが重要です。当科では、前述のように、多職種によるテーラーメイド治療を目指しており、カンファレンスにおいて、医師のみならず、病棟の薬剤師や栄養士さんと協議しながら一人一人の治療方針を決めています。そうすることで、医師に言えなかった患者さんの悩み、血糖コントロール悪化の原因を呉医療 4B diabetes **ブルー** チーム内で共有し、治療法を選択できるようになっており、「無理なく続けられる」と患者さんに好評です。患者さん一人一人にとって、当科のモットーである、「明るく楽しい糖尿病治療」となるように工夫できることはないかと呉医療 4B diabetes **ブルー** チームの皆さんが常に考えています。

【糖尿病治療デバイスの進歩】

血糖コントロールが難しい患者さんに対しては、1日の血糖推移を患者が把握できる持続血糖測定器(CGM/isCGM)を導入し、それをもとに生活の

正点や治療方針の変更を提案しています。この血糖測定器のシステムの優れたところは、これまで血糖値とHbA1c値で管理していた血糖コントロールの指標を連続的な線で把握できるところであり、ご自身の血糖変動を患者さん自身が体感いただける点です。CGMやisCGMでは、1日1日の経時的な血糖変動が集積された曲線としてレポート表示されます。近年、患者さんがご自宅で測定された血糖のデータを医療者と共有できるシステムが開発されており(図3: リブレ View[®]、図4: ミニメド[™] 770G システム[®])当科におきましても本年度中に使用できるように診療環境の整備を進めております。isCGMは、これまで主に1型糖尿病患者さんに使用していましたが、保険診療の改訂により2型糖尿病患者さんにも使用しやすくなりました。これまで以上に血糖値の見える化が進むことで、より良い血糖コントロールが可能となることが期待されます。今後、Apple Watch Series 8 など血糖測定を行うことができる時計などの電子機器の販売が行われる可能性もあり、糖尿病診療は年々変化していくことが予想されます。

当科には、多くの1型糖尿病患者さんが通院されています。近年、インスリンポンプ療法の進歩が目覚ましく、「MiniMed 770G システム[®]」(図4)

図3: 経時的な血糖変動を複数日集積した曲線でレポート表示し患者と医療者の間で共有する (リブレ View[®])



図4: 持続血糖モニターの血糖値に応じてインスリンポンプの注入量の調節機能がついたミニメド[™] 770G システム[®]



では、リアルタイム CGM とインスリンポンプの組み合わせにより、血糖に応じて自動的にインスリン注入量が調整される新しいシステムが採用されており、1型糖尿病患者さんのさらなる治療改善が期待されます。さらに、チューブがない形のパッチ式インスリンポンプである「メディセーフウィズ[®]」(図5)はチューブトラブルが少ないため、糖尿病合併妊婦さんの血糖コントロールなどに活用しています。

【最後に】

糖尿病は症状が出にくいので、通院が疎かになりがちです。安心して通院を継続していただくためには、糖尿病であることを隠さずにいられる社会を作ることを目指していく必要があります。11月14日は国際連合(国連)が指定した「世界糖尿病デー」で

す。世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発活動が行われています。毎年、世界各国、全国各地の建造物が糖尿病啓発のシンボルカラーである**ブルー**にライトアップされ、各地で糖尿病の啓発イベントが開催されます。糖尿病週間の期間中、呉医療センター正面玄関にある「風景のリズム 光・風・波のモニュメント」を**ブルー**にライトアップしていただいております(図6)(詳細は世界糖尿病デー HP (日本語版) <http://www.wddj.jp/index.html>)。今後も、糖尿病診療ならびに啓発活動を通して、糖尿病に対するスティグマ(負の烙印)をなくすることで、患者さんが通院しやすい社会にすることができるようし、糖尿病合併症のない健やかな生活をおくっていただけるよう、呉医療 diabetes **ブルー** チームが活躍いたします。

図5: チューブレスのパッチ式インスリンポンプメディセーフウィズ[®]



図6: 世界糖尿病デー(11月14日)の当院モニュメントの**ブルー**ライトアップ



呉の夜景と**ブルー**の造形美



呉の夕暮れに映える**ブルー**ライト



黒い空に輝く**青い**希望

歯科
・
歯科口腔外科「新体制後の
取り組みと抱負」

歯科・歯科口腔外科科長 武知 正晃



当科では歯・口腔・顎・顔面領域に生じる様々な疾患を診察しており、院内他科及び近隣病院や歯科医院と連携しながら、かかりつけ歯科では対応困難な口腔顎顔面領域の疾患に対して御紹介をたくさんいただき、診断、治療を行っています。また 2022 年 4 月から常勤歯科医師を 5 名に増員していただき、新たな取り組みとして通常のインプラント治療に加え、患者背景や全身状態、既往歴などによって一般歯科医院では対応困難なインプラント症例に対する相談・計画・治療そしてインプラント関連のトラブル症例の対応を行っています。当科におきましては、患者さんが安心、安全にインプラント治療を受けて頂けることを第一に、インプラント治療前に CT 撮影を行った後、インプラント治療専用シミュレーション解析ソフトを用いて精密かつ正確な診断、検査を行っています。その解析ソフトを応用することにより、最適なインプラント体の埋入部位、埋入方向の決定やインプラント体埋入部の骨量、骨質の状態、下歯槽神経血管束や上顎洞底との位置関係などの解剖学的分析を行うことで精度の高いインプラント治療が可能となります。また術中にインプラント体をシミュレーションどおりの正確かつ適切な位置に短時間で安全に埋入することができるサージカルガイドを応用した最新システムも導入しております。さらに当科ではインプラント埋入部の骨量が不足している難症例におきましても、上顎洞底挙上術(サイナスリフト)や骨誘導再生法(GBR)、スプリットcrest、ベニアグラフトなどの各種骨造成手術も開始しました。今後、当科では呉医療圏のインプラント治療に関して安心・安全な質の高い医療を提供できると確信しています。

顎口腔領域に発生するがんは、舌がんや歯肉がんなどのように、口腔内で直視出来る部分に発生していることがほとんどで、歯科医院での虫歯治療時に偶然発見されることも多く、歯科医院からの紹介で当科を受診する患者さんも増加してきています。口

腔がんは、咬合や咀嚼、嚥下などの機能面を考慮した上で総合病院の歯科口腔外科として関連した放射線治療科、耳鼻咽喉科、形成外科、血液内科などと密に連携をとって対応しています。顎顔面頭頸部癌治療の主体は耳鼻咽喉科・頭頸部外科が主体となり、術後の顔貌や機能再建は形成外科で多くの症例で行います。今後当科では顎骨再建および咬合再建治療(インプラント治療)を主に行う方針です。当院は、保険によるインプラント手術すなわち広範囲顎骨支持型装置埋入手術の施設基準を満たしており、呉・東広島・竹原地区唯一の施設となっているため、当科では本年度から腫瘍や顎骨骨髄炎、外傷などにより広範囲な顎骨欠損もしくは歯槽骨欠損症例に対して保険によるインプラント治療(広範囲顎骨支持型補綴)が可能です(図1)。

上顎歯肉がん術後症例



図1 広範囲顎骨支持型装置による咬合再建

当院では全身麻酔下で様々な手術が行われており、他科と連携することで多くの患者さんの周術期口腔機能管理(口腔ケア)をさせていただいています。中でも、当院は中国がんセンターが併設されているため、手術療法、放射線療法、化学療法(抗癌剤)などの治療も多く行われています。がん治療中に口腔機能管理を行う事により、術後の肺炎リスクや菌血症リスクおよび、化学療法時の口腔内有害事象の減少が期待できます。具体的には周術期(手術前後)に際して治療の妨げとなるような歯性病巣の有無を精査して、口腔ケアおよび必要な場合には抜歯を含め歯科的治療を早急に行い、手術前には口腔内環境がある程度改善されている状態を目指します。医科主治医との連携のもと治療リスクの軽減に努めており、2012 年度より開始してから年々依頼件数が増加し、2017 年より 800 件程度で推移しています。2021 年度では過去最多の 987 件の周術期口腔機能管理を行いました(図2)。今後は周術期管理セン

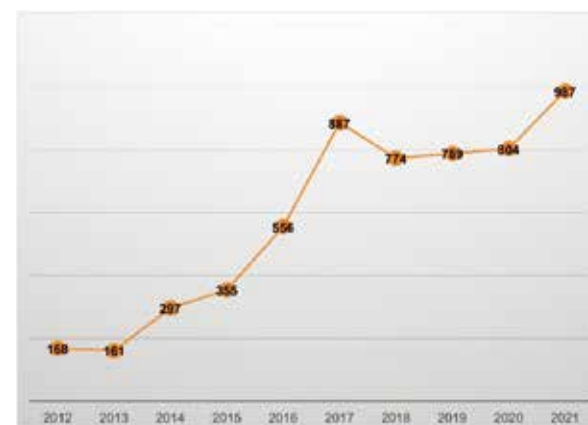


図2 周術期口腔機能管理紹介件数

ターの発足により、今まで以上に効率よく周術期口腔機能管理のマネジメントができ、質の高い医療をより多くの患者さんへ還元できるのではないかと期待しています。

歯性感染に伴う細菌性顎骨骨髄炎やビスフォスフォネート製剤(BP 製剤)やデノスマブ製剤(ランマーク®)など骨吸収抑制薬に関連する顎骨骨髄炎・顎骨壊死(anti-resorptive agents-related osteonecrosis of the jaw : ARONJ)や放射線性骨髄炎に対する治療も行っています。中四国でも導入の少ない大型高気圧酸素治療装置を設置しており、一般的な外科的手術治療に加え、当院では治療困難な難治性顎骨骨髄炎・顎骨壊死に対して高気圧酸素治療を行うことができます。高気圧酸素治療は顎骨骨髄炎に有用な治療方法であり、入院下、外来通院での加療が可能です。近年、お陰様で他科と密に連携することで骨吸収抑制薬導入前に口腔内精査を目的に紹介いただくことが多くなりました。骨吸収抑制薬使用による ARONJ リスクについて患者によく説明し、口腔内環境を整備することで ARONJ のリスク低減につながっていると考えています。

口腔内環境は全身疾患と密接に関係しているといわれています。今後、当科では歯科医師のみならず、優秀な歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手のスタッフと一丸となって連携し、患者さんの口腔環境の改善に積極的に取り組んでいくことで、QOL 向上に繋がるよう精一杯努めていきたいと考えていますので、歯科口腔外科に多くの患者紹介をよろしく願います。





8A病棟

8A 病棟 看護師長 酒見 博之



8A 病棟は、55 床の病床数を有する混合病棟です。脳神経外科、脳神経内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科に加え令和 3 年 1 月より、形成外科、歯科口腔外科の 5 つの診療科となりました。日々様々な手術や検査、治療、看護を提供しています。

令和 3 年度の手術件数は、脳神経外科 106 件、耳鼻咽喉科・頭頸部外科 722 件、形成外科 38 件、歯科口腔外科 34 件(形成外科、歯科口腔外科は、令和 3 年 1 月からの実績)です。

病棟特有の検査として頭蓋内病変の診断のための脳血管撮影や、神経・筋疾患の診断のための筋生検、睡眠関連疾患の診断のための睡眠ポリグラフを行っています。また、耳鼻科領域では顔面神経麻痺や突発性難聴治療の目的で高気圧酸素療法を行っています。

看護は、様々な診療科の患者が入院されているため、患者の状態に合わせた観察やケアが求められます。急性期から慢性期、終末期へ向かう患者や、治療を終え在宅療養、社会復帰へ向かう患者等、病期に応じたケアが必要です。患者やご家族の意思を尊重し、退院後のリハビリテーションや看護が継続されるよう医師や看護師、リハビリテーションスタッフ、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー等の多職種で日々カンファレンスを行い、地域の病院、訪問看護ステーション、居宅サービス事業者と連携を図りながら退院後の生活のサポートをさせていただいています。



8A 病棟スタッフ

看護師は、様々な診療科や疾患に対応するため、定期的に各診療科の医師に協力してもらい勉強会を実施し、知識の蓄積に努めています。

また、患者が急変した時にスタッフ全員が適切な対応ができるように、急変時の対応についてシミュレーションを年間の計画を立てて実施し、スキルアップを図っています。

患者が安心できる療養環境の提供を行うため、医療安全の向上を目指しています。8A 病棟では、週 1 回インシデントミーティングを実施し、病棟内で発生したインシデントやアクシデントについてスタッフ全員で共有し、原因と対策について話し合い、1 週間の目標を立てて取り組んでいます。



インシデントミーティング

8A 病棟は、多い日で 1 日 10 名ほどの入院や、9 件ほどの手術があります。日々スタッフ一人ひとりが自分の出せる力を発揮して、協力し合い、患者が安心して治療や検査、手術が行われるよう全力で看護にあたっています。日々繁忙な中でも、患者やスタッフ同士を思いやり、行動できるスタッフが揃っています。

今後も多種多様な疾患に対応できるよう、スタッフ一人ひとりの知識とスキルの向上を図っていきたいと考えています。また、入院から退院されるその日まで、患者さんやご家族に安心していただけるようこれからもスタッフ全員で力を合わせて温かい看護を提供させていただきます。



9A病棟

9A 病棟 看護師長 流田 美佐



9A 病棟は、病床数 31 床の精神科病棟です。呉市および広島県東部で唯一の総合病院の中にある精神科です。主としては統合失調症、気分障害、神経症性障害、器質性精神障害や近年では摂食障害の診断と治療を行っています。また、総合病院の中の精神科の役割として、精神疾患を有する身体合併症(新生物、内分泌・代謝疾患、神経系の疾患、消化器系の疾患、筋骨格系および結合組織、腎尿路生殖器系の疾患、中毒等)の受け入れも行っています。主な治療は、難治性統合失調症に対する電気痙攣療法やクロザリルによる薬物療法を行っており統合失調症の県拠点病院に指定されています。

表 1 電気けいれん療法件数

項目	R1 年度	R2 年度	R3 年度
件数	540 件	526 件	533 件

精神科で勤務する看護師は、目には見えない患者の心の痛みや辛さを素早くキャッチしていく専門的な知識と技術に加え、身体疾患の看護も必要となります。患者の気持ちに寄り添い、早期に症状が改善できるよう日々研鑽しています。精神科医師、看護師のみではなく、各科の医師、専門チーム、専従の薬剤師や作業療法士、ソーシャルワーカーなど多職種とともに、週に 1 回カンファレンスを開催し、患者の状態や今後の方針について話し合っています(写真 1)



写真 1 多職種との合同カンファレンスの様子

入院患者様を対象に、気分転換活動を目的としたレクリエーションを看護師が主体となり、年に 4 回の恒例行事として開催しています。(写真 2)



写真 2 レクリエーションお祭りの様子

精神科には専従の作業療法士が配属されており入院患者を対象に個々に合った作業療法や、リハビリを実施しています。(写真 3)



写真 3 作業療法の様子

明るい笑顔と確かな専門性をもって患者へ最善の医療が提供できるよう努めていきます。





治験管理室

治験主任 矢野 圭悟



輸血管理室

臨床検査技師 下岡 愛



治験管理室は CRC6 名(薬剤師 2 名、看護師 3 名、1 名欠員)、事務局 5 名の計 11 名体制で業務を行っております。

CRC とは Clinical Research Coordinator の略で治験コーディネータとも呼ばれており、治験に参加する被験者さんの人権や安全性を守り、科学性・信頼性の高い治験を円滑に進められるように管理・調整しております。臨床研究法施行以降は特定臨床研究をはじめとして治験同様の質が求められており、一部の臨床研究や製造販売後調査も支援しております。

治験では「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」(= GCP [Good Clinical Practice の略])、製造販売後調査では「医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令」(= GPSP[Good Post-marketing Study Practice] というルールに基づいて実施されております。

臨床研究においては倫理指針と臨床研究法に基づき実施されており、昨年に医学系研究の倫理指針とゲノム指針が統合され「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」となり大幅に指針が改正されております。また、2022 年 4 月 1 日施行の個人情報保護法改正に伴う指針改正があり今まで以上に研究対象者を配慮した対応が求められております。

事務局は「受託研究審査委員会」、「倫理審査委員会」、「研究利益相反委員会」の計 3 つの委員会運営や CRC 補助として従事しております。

COVID-19 は日常診療だけでなく治験にも影響があり、パンデミック初期には世界的に被験者の組み入れ中断などがあり治験の進捗に大きく影響を及ぼしました。他には当院の訪問規制や治験依頼者側の出社制限などで従来は訪問で実施している責任医

師との面会やスタートアップミーティングがテレビ会議システムでの実施に移行し、感染状況が落ち着きつつある現在でもリモートでの実施が主流になりつつあります。治験管理室のこれらの COVID-19 によるリモート化対応や COVID-19 ワクチンのコホート調査・製造販売後調査対応の功績が認められ令和 2 年、令和 3 年と職員表彰を受賞いたしました。

リモート化に対応できるよう体制を整えてきましたが、電子カルテの遠隔閲覧は実施できておりません。全国的にも電子カルテの遠隔閲覧を行える施設は少ないため、当院でも実現できれば強みになり新規治験獲得に繋がると考えております。

今後も治験管理室一丸となって治験・臨床研究を支援いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



臨床検査科の検体検査では患者さんから採取される血液、尿や便を調べています。検体検査はさらに生化学検査、免疫検査、血液検査、一般検査、細菌検査、輸血検査などに分かれています。今回は輸血検査をご紹介します。

* 輸血とは

輸血とは血液を必要な時に体に補充する治療のことです。献血による血液を輸血する同種血輸血、貯めておいた自分の血液を輸血する自己血輸血などがあります。



輸血検査は 2 階の検査科フロア内の輸血管理室というところで行っています。輸血管理室は患者さんが安全な輸血療法を受けられるようにその管理と検査を行う部署です。

* 血液型の比率

日本人では A : O : B : AB = 4 : 3 : 2 : 1 です。よく耳にすることのある Rh マイナスの人は 200 人に 1 人くらいの割合です。

* 血液型検査

輸血をする際には 1 番最初に血液型を調べます。血液型検査は ABO 型と Rh(D) を中心に検査しています。

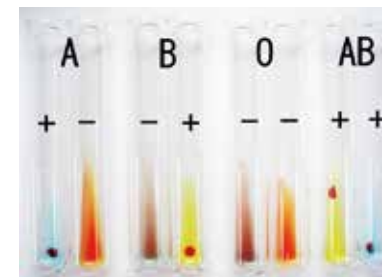
赤血球の表面にはいろいろな形の「抗原」と呼ばれる標識がたくさんついています。どの種類がどのくらいついているのかは人によって全然違います。



代表的な ABO 血液型だと、A 型の人の赤血球は「A 抗原」、B 型の人は「B 抗原」を持っており、AB 型の人は「A 抗原」「B 抗原」を両方持っています。O 型の人は「A 抗原」も「B 抗原」も持っていません。

血液型は ABO 型以外にもあります。例えば先ほどの Rh マイナスとは、血液型 Rh 系抗原の中の「D 抗原」を持っていない人のことを言います。

これらの赤血球を専用試薬と混ぜると下の写真のように凝集ができます。



検査では、機械の場合も人が行う場合もこの反応を利用しています。



* 交差適合試験

輸血する場合は、基本的に同じ血液型を選択します。輸血前には、患者さんの検体と製剤の血液を試験管内で混ぜて、患者さんに投与しても問題ないかどうか検査しています。

このように様々な検査を行い、患者さんに適合する製剤を準備しています。

臨床検査科では患者さんの診療のお役に立てるようにスタッフ一同、迅速かつ正確な検査結果報告を心がけています。

検査項目や輸血に関することなど不明な点があればお問い合わせください。

薬剤師派遣活動(大阪臨時医療施設)報告

薬剤師 石村 美祐



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行し始めて2年目が経過した2022年。感染者数が急増した第6波では、病床数のさらなる上積みが見られています。この度、重症化リスク因子のある高齢者の受け入れ枠を拡大する観点から、国と都道府県の協働により宿泊療養施設等を臨時医療施設(診療機能強化型宿泊療養施設)へ転換等して、新たな病床等を確保することとなりました。

東京都と大阪府においては約1,000床の臨時医療施設の新増設を図ることとなり、大阪府では、市中のホテルと大規模医療・療養センターが臨時医療施設として開設されました。受入れ対象は、厚生労働省のCOVID-19診療の手引き第7版より軽症、中等度Ⅰに分類される患者となっています。国立病院機構に対しては厚生労働大臣から国立病院機構法21条による要請があり、中国四国グループからは3名の薬剤師が派遣される運びとなりました。派遣期間は2022年2月17日から3月31日の6週間で、私は3月4日から17日の2週間出向しておりました。また、同期間には近畿と九州のグループからも1名ずつ派遣されていましたが、中国四国グループは各期間の引き継ぎの役割を担ったため、1日現地に残って職務を遂行してまいりました。

臨時医療施設での勤務内容は、大きく①オンライン診療業務、②病棟業務の2つに大別されます。オンライン診療業務は、軽症患者を対象にしたオンライン診療を行う上で医師の診療サポートを行う業務となります。軽症患者は経過観察にて軽快することもあり、臨時医療施設内の高層階に宿泊されているため、医師が直接往診に行くことはありません。そのため、患者からCOVID-19の症状で不安なこと、

薬剤の相談やゼビュディ注の投与希望がある場合は軽症担当の看護師へオンライン診療の予約を申し出ていただきます。1日に多いときは6件予約が入ることもあり、それぞれの患者がどういった内容でオンライン診察を希望したのかは、Salesforceといったシステムを用いて情報収集を行います。続いて、収集した患者情報をオンライン診療担当医へ情報提供を行います。軽症患者担当の看護師とも情報共有を行い診療内容を確認します。オンライン診療においてゼビュディ注の投与希望患者の基本情報を確認し、重症化リスク因子の項目と投与の適否を確認したり、診察内容に漏れがないかを支援することが本業務の大事な部分となります。

病棟業務では、通常の病院での病棟担当と同様な業務内容になります。入所された中等症患者の持参薬の鑑別、持参薬の残数管理、退所者の対処手続き補助などを行います。持参薬の鑑別は電子カルテが導入されていないので手書きで行います。



図1. オンライン診療ブース



図2. 臨時医療施設の薬局



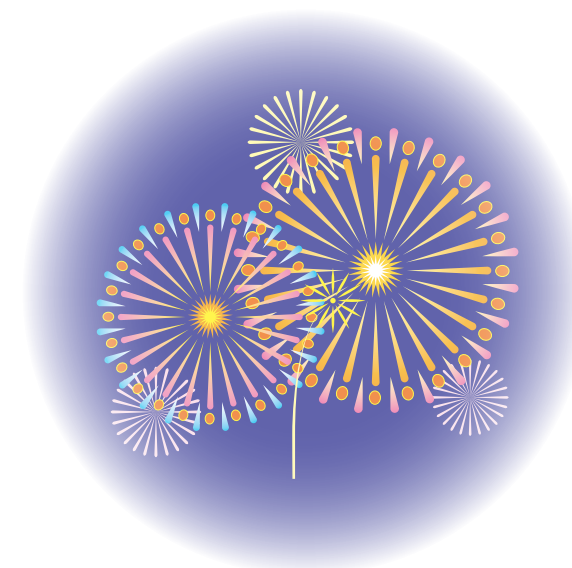
図3. 注射剤調製中

その他の業務としては、内服・注射薬調剤業務、薬剤の調製業務、医薬品の発注・納品対応などがあります。手書き処方箋になりますので、処方箋を医師から受け取った際に記載してある処方内容に疑義がないかを確認する処方監査以外に、処方箋に記載されている内容に漏れなどの不備がないかも確認を行ってから調剤する流れになります。電子カルテは用法などの指示も入力してあるので記載漏れが生じることはありませんので、手書き処方箋ならではの確認が必要になります。

注射剤はすべて調製を行ってからレッドゾーンへ薬剤の払い出しを行います。呉医療センターでは抗がん剤以外の注射剤は調製せず各病棟へ払い出しを行っていますので、注射剤の調製は私個人としてはなかなか経験できない業務でした。

今回の派遣で感じた課題としては、薬剤師がレッドゾーンに入って業務を行っていないため持参薬鑑別や、一包化されている持参薬の中止薬対応などはすべて看護師に依頼する状態になっていることです。普段の一般病棟での薬剤管理指導業務や薬剤指導を、直接患者さんに行えないことが課題であると感じました。

災害医療の派遣現場とはまた違った感染症の医療派遣であり、貴重な経験となりました。今後、薬剤師として派遣経験を業務に活かしていきたいと考えます。



第11回 治験責任医師表彰

治験主任 矢野 圭悟

2022年4月の管理診療会議にて2021年度治験責任医師表彰が行われました。治験責任医師表彰は2010年度から開始されており、1年間で最も治験に貢献された治験責任医師を表彰しております。

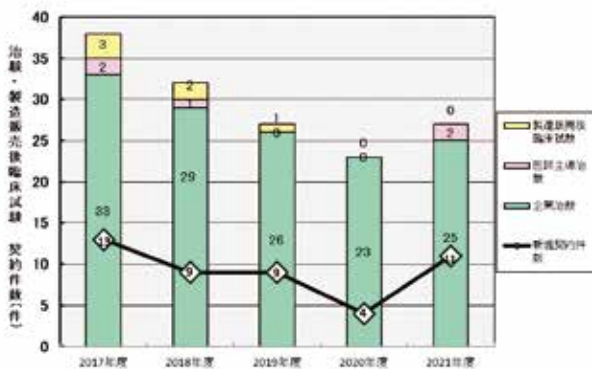
2021年度はCOVID-19禍で多忙の中でのNHO内で最速の症例満了であったことを称え呼吸器内科科長の妹尾直先生が受賞されました。呼吸器内科の受賞は治験責任医師表彰が始まって初の受賞です。

当院では昨年度は11診療科で27試験(企業主導治験:25試験、医師主導治験:2試験)の治験を実施しており、医師主導治験においては当院では3年ぶりの実施となっております。COVID-19の影響や治験の国際化による日本の症例数減少など様々な要因が相まって治験の実施状況は、年々右肩下がりとなっておりますでしたが、昨年度は新規治験を11試験受託しており活気が戻りつつあります。今年度は7月1日時点で既に9試験選定されており、昨

年を上回る勢いとなっております。

治験は臨床試験という一面だけではなく、既存治療無効の患者さんにとっては新たな治療選択肢になればという想いで治験管理室一同日々の業務に当たっております。今後も新規治験の紹介があれば該当診療科にご案内させていただきます。

治験が円滑に実施できているのも先生方・各部門皆様のご協力があってこそそのため、この場をお借りして感謝申し上げますとともに今後とも何卒よろしくお願いいたします。



防火避難訓練を終えて

附属呉看護学校1年生(60回生) 宮本 ひかり

呉看護学校に入学してまもなく行われた防火訓練を終えて、私は「普段から、もしものことを考えておくことの重要性」を学びました。当日は、火災発生からの放送から発生場所の確認を行い、そのうえで次にどのように行動すべきかを考えることができました。学生全員での避難は人数が多く、混雑しそうになりましたが、少しでも早く避難できるよう一人ひとりが冷静に行動できたと思います。

今回は訓練があることを事前に知っていたため、冷静に行動できましたが、実際の火災が起きた時に訓練と同じようにできるのか、自信が持てないなと実感しました。だからこそ普段から避難場所や避

難経路を考え想定しておくが必要だと思いました。そして、初期消火が行えるように、消火栓・消火器の場所と使用方法について学生全員が知っておく必要があると思いました。

看護師になると自分の身を守ることと合わせて、患者さんの身を守る必要があります。患者さんに安心・安全に避難していただけるように声かけや避難経路の確保を行い、看護師同士のコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。今日の訓練で学んだ緊急時の対応を日頃から意識し、広い視野を持って行動する力を身につけたいと思います。



「広島県看護学生スポーツ交流大会」を終えて

附属呉看護学校3年生（58回生）スポーツ交流大会実行委員 南 瑛理香

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、広島県下8校の看護学生総勢1100名が集うスポーツ交流大会は中止となっていました。しかし、今年度はオンラインで実施する事となり、私たち3年生にとっても初めてのスポーツ交流大会となりました。開催に向けて準備の段階から各校とオンラインミーティングを行い、競技する内容を決定していきました。そして役員全員でしおりを作成するなど、他学年の実行委員と協力して情報共有しながら取り組むことができました。

当日の学校紹介では、動画を5分程度にまとめ

て上映しました。他校の特色や雰囲気を知ることができ、また、改めて私たちの学校の特色や良さに気づくことができました。

応援合戦では、各校テーマに沿って工夫された映像となっており、会場から笑い声や拍手が起こったり、とても和やかな雰囲気となりました。最後に互いにエールを送りあい、共に看護師国家試験に向けて頑張っていこうと暖かい気持ちになりました。

今回のスポーツ交流大会では、実際に体を動かす競技はありませんでしたが、新たな交流方法の機会を持つことができ、とても貴重な経験となりました。



他校へ質問をしている場面



他校からの質問に答えている場面



学校紹介で放映した映像



応援合戦の映像

「ナイチンゲール生誕祭」を終えて

附属呉看護学校 学生自治会会長

5月12日はナイチンゲールの誕生日です。私たちは看護師を志す者として患者さんのお役にたてることはないかと考え、感染予防行動をとりながら、「ナイチンゲール生誕祭」を行いました。

点灯式では密をさけるため、各学年の教室に式の様子を同時放映しました。私は代表としてナイチンゲール誓詞の唱和を行い、厳かな雰囲気の中で学生は式に出席することができたと思います。

また、日頃実習でお世話になっている患者さんと病院スタッフの方々への感謝の気持ちをお伝えしたいと思い、折り紙で作成したお花にメッセージを添え各学年の代表者が病棟を訪問しました。その際、

病院スタッフの皆様から「素敵なお花ですね。」「ぜひ飾らせて頂きますね。」などの言葉を頂き、とても嬉しい気持ちになりました。また、音楽による癒しをお届けするために、ハンドベルで「世界に一つだけの花」「小さな世界」の曲に気持ちを込めて演奏しました。そして、動画を病院の専用チャンネルで放映して頂いています。

今回の行事を開催するにあたっては、病院関係者の方々に多くのご協力を頂きました。この貴重な経験を通して一人一人が目指す看護師像に近づけるよう、がんばっていく決意を新たにすることができました。



点灯式を各教室から見守る様子



2年生



♪世界に一つだけの花♪

♪小さな世界♪



1年生



第55回呉看護学校 学校祭を終えて

附属呉看護学校2年生（59回生）学校祭実行委員 平岡 生成・牧村 海音

6月18日土曜日に、“We can do everything”
～私たちには何でもできる!!～というテーマのもと、第55回 学校祭を行いました。

今年の学校祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、在校生のみの参加として行いました。3年ぶりの開催であったため、全てが“1”からのスタートでした。最初は何から手をつけていけばいいのかわかりませんでしたが、会議を経ながらリーダーを中心に役割を分担して準備を進めることができ、学校祭を通してリーダーシップやメンバーシップを身につけられたと思います。特に有志によるステージ発表を当日に行うこととなり、ステージ運営担当者は、感染対策を兼ねた会場準備や人数制限などの検討を重ねてくれました。その結果、体育館と

教室での同時上映を行い、ステージ発表を成功することができ、皆さんに本当に感謝しています。

学校祭を終えて、「今回の学校祭、楽しかった。」と、みんなに言ってもらえ、実行委員として準備をしてきてとても嬉しかったです。そして、学校祭を通して、仲間との協力・団結の必要性や仲間の大切さを改めて考えることができました。コロナ禍でも無事に終えることができ、ほっとしています。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。



永年勤続表彰

給与係長 地田 浩二

国立病院機構では毎年4月1日時点で、国立病院機構の職員としての在職期間の合計が満20年又は満30年に達し、勤務成績が良好な者について、それぞれ「永年勤続20年表彰」又は「永年勤続30年表彰」を行っています。

今年度は5月24日(火)に勤続20年以上勤務した職員について永年勤続表彰式を執り行いました。

当日は幹部職員列席の元、下瀬院長より表彰者一人一人に対して理事長名での表彰状と記念品が授与されました。

続いて下瀬院長が、これまでの職員に対する感謝の気持ちや病院のこれからに期待を寄せる言葉を述べました。

表彰された方々、永きにわたり国立病院機構の発展のためにご尽力頂き、ありがとうございました。今後とも国立病院機構の発展のため、引き続きよろしくお願い致します。



表彰者
(20年以上)

職名	氏名
看護師長	濱中 静香
看護師長	久田 久美子
教員	小杉 恭子
教員	奥田 真由美
看護師	三堂 美香
看護師	西村 千穂
看護師	福田 聖子
看護師	榎 智子
看護師	寺戸 敏子



記念撮影



「令和4年度呉医療センター特定行為研修」開講式の開催について

庶務係長 中山 裕文

6月1日(水)に「令和4年度呉医療センター特定行為研修」開講式を行いました。

特定行為研修を当院では昨年度より実施しており、今年度は2回目の研修となり、本研修については当院看護師1名と岩国医療センター看護師1名の計2名を受講生として一年間通して行います。

特定行為は38行為21区分に分けられた医療行為であり、例として人工呼吸器や血液透析器の管理、術後の疼痛管理等が挙げられます。これらの医療行為を看護師が手順書に基づいて単独で行えるように

なるための研修が特定行為研修であり、厚生労働省が指定した医療機関等で看護師資格を持った者が受講でき、当院では昨年度から、特定行為の中でも救急医療に関連した行為の研修(救急医療パッケージ)を行っています。

昨年度は2名の看護師が研修を修了し、今年度より特定看護師として研修で学んだことを現場で活かせるよう頑張っています。今年度の受講生も来年度から特定看護師として活躍出来るように、関係者一同努力して参ります。



開講式の様子



記念撮影

専門看護師の活動紹介

救命救急センター 急性・重症患者看護専門看護師 長岡 孝典



私は、急性・重症患者看護専門看護師として、緊急度や重症度の高い患者へ集中的な看護を提供し、患者家族が安心して治療を受けることができるよう支援していくことを目指し、活動しています。



〈後輩看護師と人工呼吸器ケアについて検討している様子〉

救命救急センターには、突発的な発症や不慮の事故などによって、生命の危機的状況となる患者が多く入院されます。手術後の侵襲期にある患者や救急車で搬送される重症患者への看護実践に加え、緊急で入院される患者家族が抱える不安な思いに寄り添うために、精神的サポートも併せて行っています。救急の現場では、集中治療を行う患者もいる一方で、治療の限界から終末期へ移行する患者もいます。ある患者の看取りの際、妻より「お父さん、よく頑張ったね。ありがとうね。また一緒になろうね。」と声をかけているのを目にしました。このように、患者の看取りの場面に立ち会う中で、その人らしい最期を迎えるために、患者家族のベストのタイミングで面会が調整できるようにしています。この経験から活動の中で、特に力を入れて取り組んでいるのが、「倫理調整」です。医療の現場では、白黒つかない倫理的課題も多くあります。様々な場面で「倫理」について考える中で、看護師に限らず、多職種との連携がとても重要となります。専門看護師として、医療者

と患者家族の橋渡しができるよう調整していくことを大切にしています。



〈治療に関してのディスカッションの様子〉

「倫理」を考える上で、倫理的課題に気づく力を高めていくことがとても重要となります。倫理カンファレンスや勉強会などを通して、「倫理」を考えるきっかけ作りができるよう実践しています。



〈学会にシンポジストとして登壇〉

さらに、臨床で行う看護ケアを振り返る機会として、学会などに参加するなどの研究的、教育的視点も大切にしています。今後、患者にとって最善のケアを求め、「Care に限界はない。」ことを信じて、専門看護師として活動していきたいと思います。



うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
9A 病棟
看護師
中森 友梨さん

9A では、思いの表出が困難な人や精神状態に変動のある人など様々な方が入院されます。中には身体疾患を患って手術目的で入院される方もおられるため精神面のみならず身体面の看護も必要であり、幅広い分野を学べます。そのため患者さんの些細な変化にも気づけるよう日々の関わりを大切にしています。

流田 9A 病棟看護師長より

中森さんは、患者さんやスタッフに対していつも親切に優しく対応されています。可愛い笑顔がチャームポイントでいつも周囲を穏やかな雰囲気してくれます。可愛い笑顔だけではなく自分の考えをしっかりと伝えることもできるため、とても頼りになる存在です。



リハビリテーション科
言語聴覚士
宇都宮 瑞穂さん

患者さんと接する時は、声のトーンや笑顔を絶やさないことを意識しています。コミュニケーションを通して患者さんとより良い信頼関係を築き、リハビリテーションを提供できるように心掛けています。

池西 作業療法士長より

優しい口調で物柔らかな対応をされる宇都宮さんの周囲は、いつも居心地のよい時間が流れています。どんな時でも温かい笑顔を絶やさず、職場の雰囲気も癒してくれます。緑の下の力持ちとして、なくてはならない存在です。



看護部
10A 病棟
看護師
村中 由希さん

10A 病棟に配属されて3か月が経ちました。10A 病棟では防護服を着用して勤務しているため、表情も伝わりにくく、患者さんとの会話で聞き取りにくい場面もあります。そんな中でも丁寧な看護を提供し、患者さんの不安を軽減できるよう、これからも頑張ります！！

原田 10A 病棟看護師長より

村中さんは、10A 病棟での勤務は4か月目を迎えました。10A 病棟は感染症の看護を担当している病棟で、防護服を着用して患者さんの看護にあたるため、患者さんにはこちらの表情も伝わりにくいのが現状です。村中さんの、穏やかな雰囲気と優しい笑顔は、感染症で入院されている患者さんにとって、安心感につながる大きな支えになっています。



企画課
契約係
金子 悠太さん

契約係の仕事は必要な物を必要な時に確実に調達することだと思っています。そのために関係部署との良好なコミュニケーションと迅速な対応を心がけています。現場の皆さんに助けていただくことも多く、支えられて仕事できていると感じています。感謝の気持ちを忘れず現場の皆さんの力になれるよう努めていきます。

上藤 企画課長より

金子さんは、物腰が柔らかく、どんなに忙しくても誠実に業務に取り組んでくれます。自分の業務範囲だけでなく周りのサポートもしてくれていて、企画課になくてはならない存在です。

我が家の スターたち



保護者コメント

入園当初は保育園の入り口まで行くと泣いていたのに、今では笑顔で元気よく登園しています。園庭で遊んだり看護学校の鯉を見てテンションが上がったり、一日の様子を先生から聞くと楽しく過ごしているようで嬉しく思います。先日の保育参観日では、音楽がかかるとノリノリになったり、大好きな絵本を先生が読むと一番前の特等席に座ったり、初めて見る姿に驚きました。柚樹の成長を家族みんな楽しみにしているよ。お友だちや先生と一緒に思いっきり遊んで、たくさん思い出を作ってね。



小石 柚樹くん

担任保育士のコメント

何にでも興味津々、元気印のゆずきくん。好奇心旺盛で楽しいことを見つけるのがとっても上手です。生き物も大好きで、戸外遊びの時にアリを見つけると“ニコッ”と笑って、しゃがみ込んでじーっと観察しています。将来は虫博士かな？ そんなゆずきくんに元気をもらって、癒されている毎日です。これからもいっぱい遊んで、いろんな経験をしようね。



保護者コメント

「保育園に行く人？」「はい!!」というやりとりをして登園するのが日課の娘。保育園に着くとすぐに先生やお友だちのもとへ向かうので少し寂しい気持ちになりますが、先生方の愛情をたっぷり受けて、お友だちから沢山の刺激や優しさをもらっているようです。人を笑わせることが好きで不器用なコチョコチョコをしてきたり、少しハスキーな声で歌って踊る娘の将来が楽しみです。遊びの中からいろんな経験をして、自分の好き!を沢山見つけてね。



景山 紗帆ちゃん

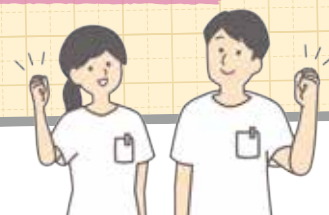
担任保育士のコメント

元気いっぱいのニコニコさほちゃん。表情がとっても豊かで、いつも周りを笑顔にしてくれるアイドル的存在です。最近のさほちゃんのお気に入り、お母さんに作ってもらったミニバック。毎日嬉しそうに持って登園してくれています。歌が大好きで、両手を広げてノリノリな姿がかわいくてたまりません。これからもみんなと歌ってあそんで、楽しい思い出をいっぱいつくろうね。

独立行政法人国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校

令和5年度

学生募集のお知らせ



1. 募集定員

入学定員	特別推薦入試(指定校制)	推薦入試	大学生・社会人入試	一般入試
40名	定員の60%程度			定員の40%程度

2. 出願期間・試験日・合格発表日

区分	出願期間	試験日	合格発表日
特別推薦	令和4年9月21日(水)～ 令和4年10月5日(水)消印有効	令和4年11月2日(水)	令和4年11月30日(水)
推薦			
大学生・社会人			
一般	令和4年12月1日(木)～ 令和4年12月26日(月)	令和5年1月17日(火)	令和5年2月15日(水)

【連絡先】0823-22-5599（土日祝日を除く9:00～17:00）

呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和4年6月に、寄付をいただきました。

◆ご寄付 一般社団法人 呉市医師会さま
(臨床研究(病理研究)発展のため)

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

ダムが好きです。特に貯まりきったダムは大好きです。今年の中国地方の梅雨は過去最速の6月下旬に明け例年に比べ降水量も少ないとのことでした。我が家では、早明浦ダムの貯水率を日々ネットで検索して一喜一憂する恒例行事が始まりました。何を目的に貯水率を確認するのか、人間の知る欲求は深いのか浅いのか、考えている今日この頃です。

(広報委員会)